

世界遺産級の絶景ブルーはどうですか ユーシン渓谷ハイキング

実施日 2016年10月30日

天候 曇

リーダー 伊藤 久雄

参加者 若村勝昭、若村貴世子、涌井良明、石附智江、遠井謙策、伊藤久雄、石原勝正、関塚七海、渡邊悦子、宮崎敏男、向山博子、阿部みゆき 計12名

費用 ①1,560円(新宿起算)②1,620円

タイム 新松田駅(①8:10~8:50)玄倉BS(9:50)小川谷出合(10:40)新青崩トンネル(10:55)玄倉ダム(11:05)同角沢出合(11:30)第八隧道先の広河原(11:30~12:00昼食)石崩隧道(13:23)ゲート(14:15)玄倉BS

バスで移動中は時々霧雨が降っていましたが玄倉BSに着くと何とか止み空気はヒンヤリしていて気持ちがいい。

目の前に丹沢湖が広がっていて周りがいづらか紅葉し始めている。暫く玄倉川に沿って北上し小川谷出合を右に行く。幅が広く歩きやすい林道だ。車止めのゲートの脇をぬけ川に沿って歩いて行くと次々とトンネルが現れる。境隧道から第八隧道まで八つのトンネルが有る。新青崩隧道は全長327m有りヘッドランプ無しでは真っ暗で歩けない。暗いのでシャッターも切れない。玄倉のトンネルはコンクリートや鉄板、コンクリートの吹き付け、素掘りと工法が



多彩である。造られた年代が違うのだろう。期待していたユーシンブルーはダム工事のため時々放流するらしく今回も放流した後だったのだろうか水深が浅く薄いブルーだった。

朝が早かったので少し時間が速いが第八隧道を少し過ぎた辺りに広い河原があったので其処で昼食タイムにする。お腹が空いていたので飯が美味しい。



帰りのバスが心配なのでユーシンロッジまでは行かなく来た道を引き返す。

ユーシンの名

の由来については諸説あるが、大正時代森林管理小屋の番人であった小宮兵太郎が、「谷深くして、水勢勇まし」という意味より湧津と名付けたという説がある。5万分の1地形図(旧版)ではユウシンと記載され、昭和初期にはユウシン休泊所が設置されている。1951年の三保村公史には、涌深と記載されている。帰り道ロックシェッド(落石防止シェルター)で若者達数人がわいわい言いながらバーナーを使って鍋や昼食の用意をして楽しんでいた。

紅葉には少し早かったが林道にはイワシャジン、ダイモンジソウ、リンドウ、ノギクの花も見られ目を楽しませてくれた。曇り空で紅葉には少し早かったせいかバスは座る事も出来、人も少なく静かでのんびりした山行になりました。

多彩なメンバーで皆さんの協力のおかげで楽しい山行が出来ました。有難うございました。

(記&写真・伊藤 久雄)
(写真提供・涌井 良明)